

令和5年度 延岡市緑ヶ丘小学校 学校評価書

学校経営ビジョン	
ありがとうがいっぱい、笑顔がいっぱいの緑ヶ丘小 自己肯定感をもち 夢に向かって実践できる児童を地域と共に育てる	

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
学ぶ力の育成【学力向上部】	① わかる・できる授業のための工夫・改善に努めることで、確かな学力を育む。	<p>○ 主題研究において授業改善について学んだことを日々の実践に生かそうとする意識が高まった。</p> <p>○ 日常的にタブレットを活用した学びをすることができた。</p> <p>○ 積極的に児童の作文を新聞や文集に投稿し、多くの児童の作品が掲載された。表現活動の充実、自己肯定感の向上につながった。</p> <p>○ 学校では、意図的に読書に触れる時間を設定したり、図書ボランティアの読み語り等の支援を活用したりすることで、児童が読書に触れる機会が多く設定することができた。</p> <p>● 児童が主体的に学ぶ学習活動が少ない傾向にある。</p> <p>● 家庭での読書の時間が少ない。家庭と連携して読書推進をしていく必要がある。</p> <p>◎ 学びに向かう力を身に付けることを意識した授業改善を継続して実践する。</p> <p>◎ さらに、タブレットの効果的な活用を学び、個別最適な学び、協働的な学びにつながるように取り組む。</p> <p>◎ 学習したことを積極的に発信することで、互いに学んだり自己肯定感を高めたりする機会とする。</p>	2. 9	3. 7	<p>○ 読書は、家庭での教育も大切である。</p> <p>○ まずは、現状の取組を進めていただきたい。</p>
	② 児童の表現活動の充実を図ることで、児童の主体性や自己肯定感を高める。				
	③ 読書教育の充実を図ることで、児童の豊かな人間性と情報活用能力を養う。				
主体性や社会性、豊かな心の育成【生活指導部】	① 4つの「あ」の実践・継続を通して、より良い人間関係を築き、自己肯定感を高める。	<p>○ 高学年を中心にあいさつができる児童が多い。委員会活動による「あいさつ運動」に進んで参加する児童も増えた。</p> <p>○ 「いのちの教育週間」において、外部から講師を招き、各学年の実態に応じた授業を実施し、人権意識を高める機会となった。</p> <p>○ 特別支援教育の研修等で「ユニバーサルデザイン」の</p>	2. 8	3. 8	<p>○ これまで同様、緑ヶ丘地区の中心として「ありがとう」の気持ちだけでなく保護者の皆様の心に刻まれ、プラスの空気が流れるような学校経営ができるとよい。</p> <p>○ 子どもたちの「思いやりの心を育てる」</p>

	<p>② 自他の命や安全を考えて行動することができるようにする。</p>	<p>視点から授業や環境を見直すことの重要性を全職員で学ぶことができた。</p> <p>○ 委員会活動において、児童の発想を生かした主体的な取組が見られるようになった。</p> <p>● 適切なコミュニケーションをとることが苦手な児童もあり、言葉によるトラブルは多かった。全職員で根気強く指導を継続していく必要がある。</p> <p>● 避難訓練の実施はできたが、日常的に意識を向上するような取組ができなかった。</p> <p>◎ 児童のよさや可能性の伸長に注目した発達支持的な生徒指導に力を入れていく必要がある。</p> <p>◎ いじめについての対応策を全職員による研修を通して、確認することができた。問題が起きた際は、迅速に組織で対応していく。</p>			<p>にはと考えている。すぐに解決できることではないが、根気強く取り組みたいと思っている。学校と連携して続けていきたい。</p> <p>○ 学校以外の地域では、あいさつがなかなかできない子どももいる。その子に合わせた声かけをしている。</p>
<p>健康、安全管理能力の育成【健康指導部】</p>	<p>① 体育の授業や行事を通して、体を動かすことの楽しさを学びながら、自己肯定感を高める。</p>	<p>○ なわとび週間、持久走週間において、がんばりカードを活用することで、運動に楽しく取り組む児童が増えた。</p> <p>○ 学校保健委員会においてメディアと適切に接する重要性について学んだ。その後、「メディア・チェンジ週間」各学期1回ずつ実践することで、メディアに替わる家庭での過ごし方について取り組んでいただいた。生活習慣を見直すきっかけになった。</p>	2. 8	3. 5	<p>○ スマホやゲーム等の使用についての指導は、学校での指導のみが必要なのか。家庭での話合い、ルールづくりを含めた家庭教育も重要である。</p>
<p>② 自分の心や体に興味をもち、健康生活を主体的に実践する力を育む。</p>	<p>○ 熱中症対策で、積極的に情報発信をして、児童や教職員の意識向上に努めた。</p>			<p>○ メディアに替わるものとして児童館を活用してほしい。</p>	
<p>③ 給食・食育指導の工夫に努めることで、望ましい食習慣と感謝の心を育む。</p>	<p>○ 遠足時の「お弁当の日」や給食の時間の校内放送での給食一口メモ、「給食感謝集会」等において、望ましい食習慣や感謝の気持ちを意識させることができた。</p> <p>● 昼休みに外で遊ぶ児童とそうでない児童の二極化がある。進んで楽しく体を動かすことができるような手立てを講じる必要がある。</p> <p>● 学校保健委員会に参加する保護者が少ない。</p> <p>◎ 楽しく体を動かすことができるように体育の授業の充実、昼休みの外遊びの奨励を</p>				

		<p>継続する。</p> <p>◎ 魅力ある学校保健委員会の実施、実施後の内容の周知の方法などを工夫する。</p>			
<p>家庭・地域との連携、キャリア教育への取組【教務研修部】</p>	<p>① 社会に開かれた教育課程の具現化を図り、地域や他者に対する感謝の気持ちを育む。</p>	<p>○ コスモスプロジェクトをきっかけに、地域の方に学校に来ていただく機会を設けることができた。地域の方、児童、職員が顔見知りになることができた。</p> <p>○ 外部の講師を招いたり、地域の方に授業支援をしていただいたりと、多様な大人との関わりをもつことができ、様々な価値観に触れる機会となった。</p> <p>○ 主題研究において、1人2回の公開授業の実施、対話を中心とした研修、それぞれが受講した研修の報告等を実践できた。教師自身が主体的に学ぶ姿勢をもつことができたり、児童の自立を育てる学習指導について意識向上が見られたりした。</p> <p>● 学習活動や行事が単発になりがちである。</p> <p>◎ 地域との連携・協働について、年間の見通しをもって実践していく。</p> <p>◎ 遠足や修学旅行等の学校行事において、児童の主体性や探求的な学習につながるように計画・実践していくことが必要である。</p> <p>◎ 授業力向上について、主題研究を中心に、日常から情報交換をするなど学び合う教師集団を目指す。</p>	3. 0	3. 8	<p>○ 地域・保護者・学校での「熟議」で、積極的に意見を言える子どもたちが多く、成長を感じた。</p> <p>○ 取組の浸透に向けて、積極的な情報発信が必要かと思う。</p> <p>○ 散歩していると、小学生はあいさつを返してくれる。返してくれない大人もいる。</p> <p>○ 学校から地域への要望があればお伺いしたい。</p>
	<p>② キャリア教育の充実を図り、児童の主体性が育まれるようにする。</p>				
	<p>③ 主題研究を中心とした校内研修の充実を図り、授業力の向上を目指す。</p>				

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------